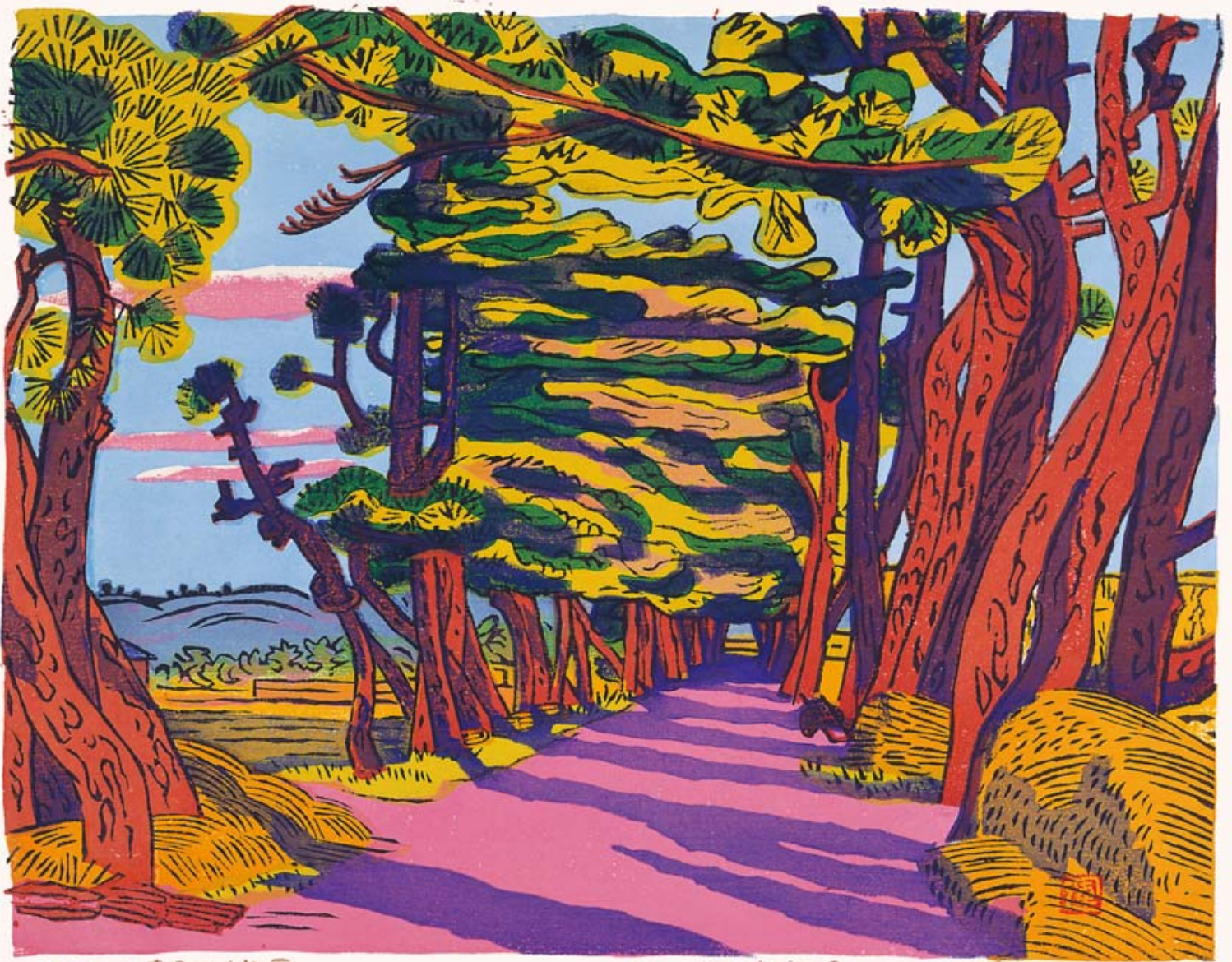


守り、創り、育てよう  
ふるさと島根の景観

# 第9回 しまね景観賞



松江 三軒の松原

Un-ichu Shiratsuka

1947

島 根 県



# はじめに

---



島根県知事 **澄田信義**

私たちのふるさと島根は、出雲、石見、隠岐のそれぞれの地域において、緑織りなす平野や山並み、変化に富んだ海岸線などの美しい自然景観に恵まれ、いにしえより豊かな文化に彩られた数々の歴史的景観が形造られています。

景観は、それぞれの自然や風土を背景として、脈々と続く人々の生活の営みの中で育まれてきたものであり、私たちにうるおいや豊かさを感じさせてくれる大切な資源です。

「しまね景観賞」は、こうした魅力ある島根の景観づくりに貢献している建造物等を表彰することにより、快適で文化の薫り高いふるさと島根の景観形成に資することを目的として創設したもので、今回で9回目を迎えました。この間、建築物に限らず、地域資源を活かして新たな景観を創り出した住民活動や、すばらしい景観を観賞することに重点をおいて取り組んだ遊覧船等の整備、また、さりげない工夫で周囲の景観に見事に溶け込ませた工作物など、県内各地において多様な形で景観への配慮が行われ、県の全域で魅力ある景観の保全と創造が進んでいることが実感されるようになりました。

今後とも、この「しまね景観賞」が、県民の皆さんに愛され、地域の自然や文化に根ざした景観づくりの一助となり、地域への誇りと愛着を育む取組みにつながっていくことを期待します。

最後に、受賞された皆様に深く敬意を表しますとともに、選定にあたり御尽力いただきました「しまね景観賞審査委員」の皆様、応募をいただきました方々に対しまして厚くお礼申し上げます。

平成14年1月

# 選考総評

---



しまね景観賞審査委員会  
委員長 **藤岡大拙**

第9回を迎えた「しまね景観賞」の応募総数は、昨年度とほぼ同じ94件であった。

「公共建築物部門」の応募数が減少した中で、「まち・みどり部門」など地元住民の活動を中心とした景観形成の取組みについては、今回も多数の応募があった。また、特筆すべきことは、石見地方からの応募が、従来より増加して34%あまりもあり、大賞となった柿木村の「大井谷の棚田」をはじめとして、11の受賞物件のうち7件にも及んだことであった。このことは、これまで比較的東高西低だった景観形成への取組みが、石見地方を含め全県的な拡がりを見せつつあることを物語っている。

選考にあたっては、例年度と同様、9名の審査委員による第1次審査(書類審査)で全応募物件の中から36件を選定し、さらに第2次審査では現地審査を行い慎重に審議し、11件の建築物や活動等を選定した。

大賞に選ばれた『大井谷の棚田』は、近年耕作放棄が進む中で、地域住民を中心とした熱心な保全活動により、棚田オーナー制度、棚田トラスト制度等を実施し、都市と大井谷地区との交流を通して美しい棚田の景観を蘇らせた取組みが高く評価された。

優秀賞の2件はいずれも津和野町に所在する。まず、「土木施設部門」の『津和野殿町通り』は、地域住民の意見やアイデアを取り入れ、明るさのなかにも落ち着いた雰囲気のある街路であることが評価された。また、「公共施設部門」の『安野光雅美術館』は、歴史的街並みの残る津和野の景観に配慮していることが評価された。

奨励賞は8件である。「まち・みどり部門」からは、道路の両側に植栽されたアジサイのすばらしい風景を楽しむことが出来る『原山雲海ロード』、「土木施設部門」からは、水の流れが美しい『匹見川床止工』と、自然とのふれあいが楽しめる『矢上鹿子原新堤』、「公共建築物部門」からは、地元住民の活動拠点としての役割も期待される『石正美術館』、「民間建築物部門」からは、山裾の田園地帯にふさわしい景観を醸し出した『出西窯無自性館』と、現代的なデザインを伝統的景観に調和させた『松江北堀美術館』、「個人住宅部門」からは、古材を活用して歴史的街並みに配慮した『小村邸』、「工作物・その他部門」からは、出雲平野の歴史とロマンを感じさせる『斐川町田園空間博物館施設案内板』が、それぞれ選ばれた。

今後とも、「しまね景観賞」が魅力あふれる島根の景観づくりに寄与するとともに、県民をはじめ多くの事業者の方々がよりよい景観づくりに積極的に取組んでいかれることを期待してやまない。

# 大賞

## おおいだに 大井谷の棚田

### 所在地

鹿足郡柿木村白谷

### 事業主体

助はんどうの会

### 概要

面積 8.2ha

棚田の枚数 639枚

助はんどうの会：平成10年4月9日から活動開始、会員20戸、64名

棚田米の販売、棚田オーナー制度、棚田トラスト制度等を実施



この大井谷地区は、8 ha程度の土地に600枚以上の小さな水田が広がり、その平均勾配もかなり急で、典型的な山間型の棚田を有している。この棚田は、室町時代末期から江戸時代の近世につくられたもので、自然に対する人々の営みとしての働きかけにより生み出されてきた雄大な景観を呈して、見る者を圧倒する。幾重にも重なる棚田は、自然と石積み  
の畦畔の巧みさが調和して、人々がもつ原風景を呼び覚まし、感動と安らぎを与えてくれる。さらに、棚田は、農業生産の場だけでなく、国土保全や環境保全などの多面的な機能をもっていて、まさに地域の景観資源であり、歴史的文化遺産としての価値も高い。しかし、地域住民からすると、生産性の低さや重労働、生活環境などの問題が重くのしかかり、近年耕作放棄が進んできて、棚田のもつ景観資源の価値や多面的機能の低下が危惧されていた。平成10年以降、柿木村および地域住民の熱心な保全活動により、棚田オーナー制度などがスタートして都市と地域との交流を通して、この棚田の景観が蘇るようになった。この内発的な取組みがあって、今後ともこの素晴らしい景観資源が保全活用されることになり、地域の保全活動を含めて大賞として評価したい。（藤居良夫）

# まち・みどり部門 奨励賞

## 原山 雲海ロード

### 所在地

邑智郡石見町矢上

### 事業主体

原山山野草グループ

### 概要

植栽 紫陽花 約5,000株  
ヤマモミジ 300本  
ヤマザクラ 200本  
平成4年5月から活動開始  
構成員 11名



近くの山はもう紅葉の石見町に入る。香木の森に向かう道に沿って少しずつあじさいが見え、それがびっしり一群となり、驚く。両側にあるのだ。ガードレールの裏側にとしばらく続く。フッと目を上げると於保知盆地の広々とした眺望となる。山の重なり、高さの具合、家々の場所、量、それはすばらしいバランスで保たれている自然の絶妙な形と空気とも言える。何か透明な明るさ、人間をも宙に浮遊させる様な空気なのだ。樹々が、山肌に遮られ、また道に目をやる。まだあじさいの群が続くのだ。間を置いて数株の固まりが両側に不規則に続く。3キロ以上も続くだろうか。なにも一連となつて続かせることはない。フッと息を抜く部分があつて良い。瑞穂町へのトンネルの手前迄あじさいは咲くのだ。ピンク、薄青、薄紫が配色されて、季節には相当のボリュームで迫ってくるであろう。於保知盆地は、霧が発生する地形である。朝日と共に消え行く名残の霧が、うっすら花々に漂う幻想美、山道はどこかさびしい。トンネルを出てその場面に遭遇する人は、一瞬、異郷に誘い込まれる思いをするだろう。あじさいの手入れ、そしてまた巨大な送電塔を景観に配慮して他に設置したという様々な工夫、見識があつて、私達は美しい風景を楽しむことができる。町と住民に敬意を表し、この美しい宝物のような郷が受け継がれていくことを願う。(山谷裕子)

# 土木施設部門 優秀賞

## 津和野 殿町通り

### 所在地

鹿足郡津和野町後田

### 事業主体

島根県津和野土木事務所

### 設計者

(株)ウエスコ島根支社

### 施工者

(有)山田土木  
大成電気水道工業(株)

### 概要

施工延長 L=191 m  
車道舗装 A=974㎡ (自然石舗装)  
歩道舗装 A=654㎡ (透水性舗装)  
照明工事 交差点照明 3基、道路照明 15基、足元灯 21基  
完成年月 平成12年12月



「コミュニティ・ゾーン」と名付けられて整備が進んでいる津和野町の中心市街地の中でも、「殿町通り」は、津和野の「顔」としてよく知られた道である。

以前と比べて一見して分かる変化は、薄茶色の御影石を使用した車道の石畳舗装である。車の走行速度を抑える心理的効果もあるというが、よく見ると色調の違う三種類の石が使われていて、一様ではない趣きを感じられる。歩道では、鯉のいる堀割側の拡幅のほか、縁石の撤去とそれに代わる石の車止め（微妙に形が異なっている）の設置、透水性のある自然石舗装がなされている。全体に、歩きやすさが重視された明るく落ち着いた雰囲気のある街路となっており、このような歩行者に配慮した道づくりが、観光地に限らず、もっと進められてもよいのでは、と感じさせられた。

整備にあたっては、住民代表も加わった検討協議会を設けるとともに、一般住民を対象としたアンケート調査、ヒアリング、ワークショップ等を繰り返し行って、地元の意見やアイデアを活かすよう努めたという。住民の思いを反映させるこのような取組みは、今後ますます重要になってくるのではないだろうか。

(八田典子)

# 土木施設部門 奨励賞

## 匹見川 床止工

### 所在地

(右岸) 益田市横田町地先  
(左岸) 益田市神田町地先

### 事業主体

国土交通省中国地方整備局浜田工事事務所

### 設計者

(株)建設技術研究所中国支社

### 施工者

開成建設(株)

### 概要

上流側護床工 平積 2 t タイプ層積 A=961㎡ (385個)  
下流側護床工 平積 2 t タイプ層積 A=3,029㎡ (1,214個)  
平積 4 t タイプ層積 A=3,453㎡ (864個)  
本体 コンクリート A=217㎡ (L=100m)  
魚道 魚道部 A=1,197㎡ (魚道ブロック305個) ほか  
完成年月 平成13年 3月



ここでの景観の対象は、河川の水の表情である。地域がら鮎の友釣りが盛んなため、この床止工の設置場所は十分検討され、横田橋と並行して直線状に、流れに対して直角に設けられるようになった。まず、その設置場所の選定に成功している。この構造物は目立たなく、あくまで水の表情を演出するための裏方に徹し、5段にわたる落差工と魚道の形状などに工夫が凝らされ、上流側の湛水面と下流側の流水面との対比と、さまざまな水の表情が美しくおもしろい。魚類の遡上効果や生息環境を考慮した魚道は、落差工全体の景観の中で浮き上がらないように配慮され、ほどよい大きさとリズム感が心地よい。床止工は、洗堀防止と同時に、水の表情を豊かにするように心掛けられている。土木施設の好ましいあり方で、評価したい。

(藤居良夫)



# 土木施設部門 奨励賞

やかみ かねこばらしんづつみ  
矢上 鹿子原新堤

## 所在地

邑智郡石見町矢上

## 事業主体

島根県川本農林振興センター

## 設計者

(株)荒谷建設コンサルタント

## 施工者

(有)左右田建設  
今井産業(株)

## 概要

親水護岸 自然石張ネット護岸 L=130m (A=845㎡)  
散策路 木造 7=1.25m、L=300m  
付帯施設  
親水公園(水路、水車、照明施設、植栽)約A=1,300㎡  
休憩所、展望台  
完成年月 平成13年5月



山々に抱かれて、ゆったりとした田園風景が広がる石見町。その中心部である矢上地区の高台に位置する堤の整備である。もともとあった農業用溜池の堤体が老朽化したために、用水の確保を目標に行れた事業であるが、周囲を巡る散策路等の整備もなされ、自然との触れ合いが楽しめる親水空間となっている。

晩秋のよく晴れた日にこの地を訪れる機会があったが、紅葉した原山が水面に映える光景にまず目を奪われた。岸辺の木の間に縫う散策路は、全長約300メートル。その途中に設けられた展望台、東屋も含め、すべて木製であり、あたたかな感触が心地よかった。そこかしこで紅葉した木の葉が静かに散る様子には秋の終わりを実感され、さらには、新緑の頃の木々の姿が想像された。東屋は堤の中ほどに突き出す形で作られており、ここで腰を下ろして、鴨の群れが時折行き来する水面を眺めるのも楽しいひとときであった。少し気になったのは、護岸の石積みの色。自然石の使用と聞くと、周囲の色合いからすると、やや白さが目立っているように見えた。

原山を背にすると、於保知盆地を取り巻く山並みも晴れやかに見渡せる場所である。隣接する「香木の森公園」や「いわみ温泉霧の湯」を訪れる多くの人々にも、石見町の四季折々の表情を身近に感じることでできる場として、親しまれるのではないだろうか。

(八田典子)

# 公共建築物部門 優秀賞

## あんのみつまさ 安野光雅美術館

### 所在地

鹿足郡津和野町後田

### 事業主体

津和野町

### 設計者

(株)番匠設計

### 施工者

戸田建設・松本建設特別共同企業体

### 概要

鉄筋コンクリート造 地上3階 一部木造  
敷地面積 5,247.25㎡  
建築面積 1,333.54㎡  
延床面積 2,514.78㎡  
完成年月 平成13年3月



平成8年度の第3回しまね景観賞で優秀賞を受賞した森鷗記念館とは対照的な造りではあるが、津和野にまた、この町の景観にふさわしい建物が出現した。

森鷗外記念館が、設計イメージの原点を森林太郎の記憶の中の風景に求めたのに対して、安野光雅美術館は、安野さんの子供の頃の記憶にある津和野の風景を基調とし、さらに、安野さんの津和野の町への将来像のメッセージが込められたものであるという。この異質な二つの建物が、共に「津和野らしさ」を感じさせ、これからの津和野の町を暗示させるのは、森鷗外や安野さんの少年期の津和野の心象風景が、設計のモチーフとして、その根底にあるからである。

安野光雅美術館は、「現代の蔵」的表現による和風調の建物である。しかし、そこには、模倣的いやらしさがなく、充実感や迫力さえ感ずるのは、和風建築の本格派としての設計者の力量によるものであろう。

歴史的環境における建築物の一つのあり方を示唆するものとして、関心の持たれる建物である。（矢田清治）

# 公共建築物部門 奨励賞

## せきしょう 石正美術館

所在地	設計者	概要
那賀郡三隅町古市場	金多 潔	鉄筋コンクリート造及び鉄骨造2階建
事業主体	施工者	敷地面積 3,418.11㎡
三隅町	(株)大本組山陰営業所 第一建設工業(株)	建築面積 1,402.94㎡
		延床面積 1,424.06㎡
		完成年月 平成12年11月



石正美術館は、群青色の石見の海が見える丘の上に端正に座している。

「美術館はあくまでも作品が主役であり、建物は時を越えたシンプルなものに…」が画家石本正氏の希望であった。実際、彼が中世の美を求めて幾度となく訪れたイタリアの小さな教会を意識させる建物は、この丘全体を賑々しく支配している自己主張の中では、不思議と抑制の利いた存在となっており、訪れる者にとって、ちょうど表座敷の手前にある小さな居間にいるような安堵感を与えてくれる。この丘を訪れる多くの児童・生徒やお年寄りにとって、ことさら「美術館」を意識することなく、気軽に立ち寄ることができる所以であろう。

この美術館の大きな特徴は、感動し創造する心を住民とともに創っていく拠点としての役割である。毎週末には一本の垂れ桜を配した中庭や回廊、創作室で住民を主体にした音楽や美術の催しが行われており、展示品の入れ替えなども地元のサポーターの積極的な協力で行われている。

「美術館」という拠点の完成を、住民とともに作り上げていく新たな景観形成の始まりとしていきたいという石見国の「水澄むまちの熱い心意気」に期待したい。  
(広沢卓嗣)

# 民間建築物部門 奨励賞

## しゅっさいがまむ じしょうかん 出西窯無自性館

<b>所在地</b> 簸川郡斐川町出西	<b>設計者</b> (有)江角建築事務所	<b>概要</b> 木造 地上2階建 敷地面積 1,635㎡ 建築面積 209㎡ 延床面積 292㎡ 完成年月 平成10年3月
<b>事業主体</b> 企業組合 出西窯	<b>施工者</b> (有)高橋工務店	



この建物は、出西窯の既設工房に隣接して建てられた一見展示館ともみえる出西窯専属の販売店舗である。

設計者は、風景にあらがわず、はじめからそこにあったように、既設工房と一体となった違和感のない形態を心掛けたという。この極力自己主張を抑えながら、周辺の環境と穏やかな調和を意図した設計者の謙虚な姿勢は、この山裾の静かな田園地帯にふさわしい景観を醸し出した。

この建物は、築後70年の米倉を2階建店舗に立て直したもので、構造的にその形態に制約もあったと思われるが、外壁の1階相当部分の黒色系の保護塗料により着色された板張りの腰壁や、ほどよいスケールにデザインされた出雲地方の伝統的工法である切り落とし格子などによる窓などが建物を引き締め、快いインパクトを与える。ただ、予算等とのからみもあったと思うが、多少の植栽は配慮されているものの、全体に殺風景な敷地構内の物足りなさが気にかかる。  
(矢田清治)

# 民間建築物部門 奨励賞

## 松江北堀美術館

<b>所在地</b> 松江市北堀町	<b>設計者</b> (有)ナック建築事務所	<b>概要</b> 構造 木造2階建 敷地面積 282.81㎡ 建築面積 169.53㎡ 延床面積 316.55㎡ 完成年月 平成13年4月
<b>事業主体</b> 松江北堀美術館	<b>施工者</b> 相互建設(株)	



堀川に架かる橋や歩道の整備、さらには電線の地中化等でのところ松江城山周辺の景観が急速に整いつつあるが、この建物はその松江城の北西側にある伝統的町並みが残る堀川通りに建つ小さな美術館である。白と黒のコントラストが大変印象的で、外観はシンプルであるがなかなかの存在感がある建物だ。

かたちは箱形でまさに現代的なデザインであるが、化粧タルキ等で処理された正面屋根の軒裏や、白い壁、開口部など至るところに「和」を感じさせる洗練されたデザインがなされているなど、周辺の伝統的景観に配慮された様々な工夫が感じられる。

屋根や壁に使われている材料は主に金属製等で、決して伝統的でも高価な材料でもないが、色や使い方、ディテールによっては伝統的景観に十分調和させることが出来る好例であるといえる。また、建物をセットバックさせ、程良い広さの広場を設け、通りや堀川に圧迫感を与えないように控えめに配置されているのも好感が持てる。  
(小草伸春)

# 個人住宅部門 奨励賞

## 小村邸

所在地	設計者	概要
平田市平田町	石川建築設計事務所	木造2階建
事業主体	施工者	建築面積 246.94㎡
小村俊美	井上建築	延床面積 146.19㎡
		完成年月 平成13年6月



近世、木綿の集散地として繁栄した平田の町並みの中に建っている。およそ住宅を新築するにあたって、従来と同じような家屋を復元しようとするには、相当の決断を要するものである。費用も新築以上にかかるし、第一変わり映えがしないからである。しかし小村氏は、歴史的町並みの雰囲気を保存するため、あえて旧態を残そうと決断した。基本的に使用できる古材はできるだけ活用し、前面の白壁、ナマコ壁、格子、西側の焼き杉板の壁などが、従来の姿、雰囲気をよく再現している。前面1・2階左右の格子の後に、チラリと茶色のサッシが顔をのぞかせ、東側の白壁に格子と同じ色に塗られた電気のメーター器が据え付けられているが、それらを見るだけでも町並み景観を保存しようとする小村氏の情熱を十分窺うことができる。

(藤岡大拙)

# 工作物・その他部門 奨励賞

## 斐川町田園空間博物館 施設案内板

所在地	設計者	概要
簸川郡斐川町内	(株)エムシー・スクエア	解説板 14基 説明板 11基 標柱 2基 道標 3基 完成年月 平成13年3月
事業主体	施工者	
斐川町	川賀石材店	



この事例の大きな特徴は、自然環境に恵まれた出雲平野の田園一帯を野外博物館と捉えていることであろう。斐川町はこの野外博物館構想を基に「出雲風土記」に登場する神社や、農業・開拓などにかかわりのある神話伝承地を取り上げ、その所在地の推定地30ヶ所に解説や地図を記した来待石製の案内板を設置した。

広い地域に点在している案内板全部は見て回れなかったが、代表的な数ヶ所を訪れた。この案内板は、どっしりとしてやわらかい色の来待石に支えられて、出雲平野特有の美しく、のんびりとした農村風景の中に溶け込んでいた。これらの地の神社を訪れ、設置された解説板を読むことによって、まさに出雲平野の歴史とロマンを体感できる。来待石を用いたのは、古代の石室や中世の五輪塔、また近代の灯籠など時代時代で活用されてきた石材ということで、歴史的にもこれ以上の地場素材は考えられないだろう。

緑に白抜きのシンボルマークはたんぼの「た」をデザインしたものとのことだが、説明されなければ解らなかった。このマークの活用は、今後この野外博物館構想をこの案内板だけに終えず、他の事業をどのように展開していくかにかかってくるだろう。  
(田村美幸)

# 第9回 しまね景観賞

## 大賞

- ① 大井谷の棚田  
事業主体／助はんどうの会

## まち・みどり部門 奨励賞

- ② 原山 雲海ロード  
事業主体／原山山野草グループ

## 土木施設部門 優秀賞

- ③ 津和野 殿町通り  
事業主体／島根県津和野土木事務所

## 土木施設部門 奨励賞

- ④ 匹見川 床止工  
事業主体／国土交通省中国地方整備局浜田工事事務所

## 土木施設部門 奨励賞

- ⑤ 矢上 鹿子原新堤  
事業主体／島根県川本農林振興センター

## 公共建築物部門 優秀賞

- ⑥ 安野光雅美術館  
事業主体／津和野町

## 公共建築物部門 奨励賞

- ⑦ 石正美術館  
事業主体／三隅町

## 民間建築物部門 奨励賞

- ⑧ 出西窯無自性館  
事業主体／企業組合 出西窯

## 民間建築物部門 奨励賞

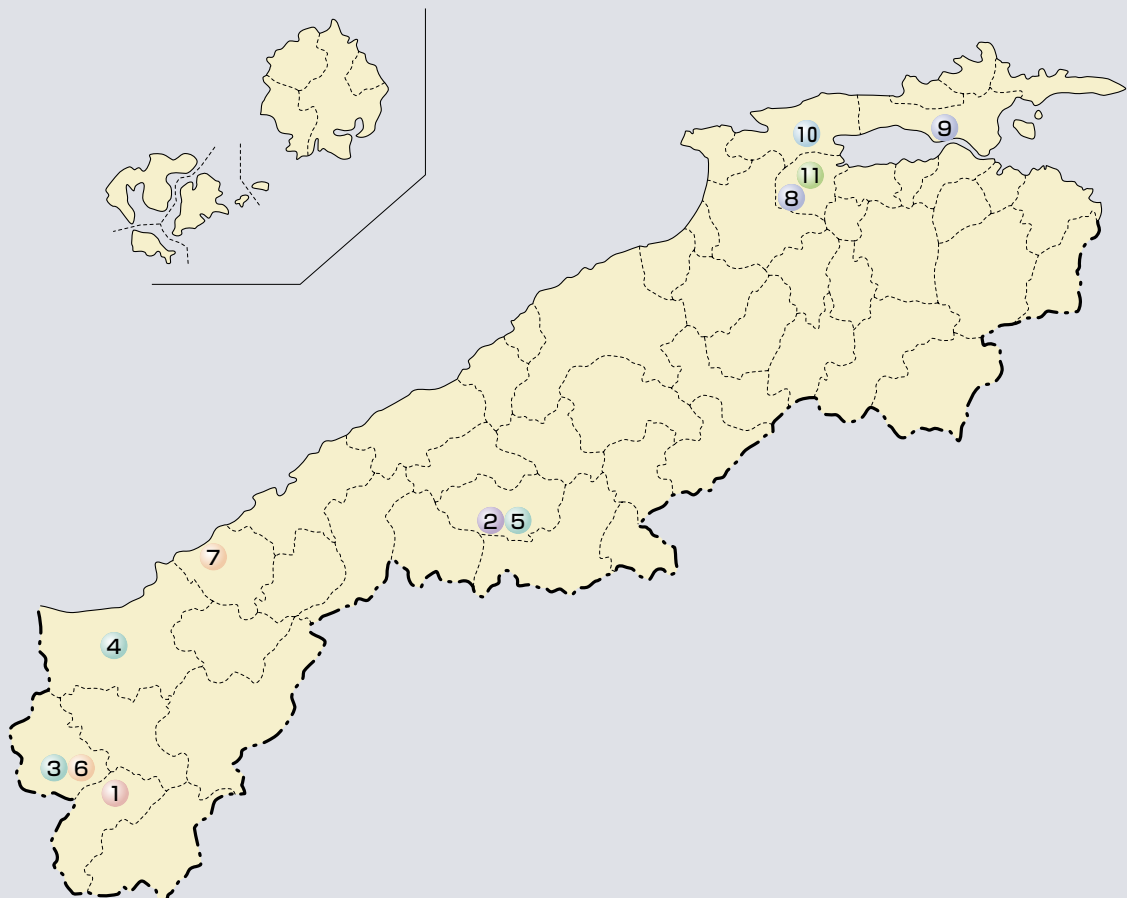
- ⑨ 松江北堀美術館  
事業主体／松江北堀美術館

## 個人住宅部門 奨励賞

- ⑩ 小村邸  
事業主体／小村俊美

## 工作物・その他部門 奨励賞

- ⑪ 斐川町田園空間博物館 施設案内板  
事業主体／斐川町





平成13年度

## 第9回 しまね景観賞



しまね景観賞表彰銘板

アルミ合金鋳物製

### 審査委員

- 小草 伸春 島根県建築士事務所協会会長
- 田村 美幸 公共の色彩を考える会委員長
- 八田 典子 島根県立大学助教授
- 藤居 良夫 信州大学工学部助教授
- 藤岡 大拙 島根女子短期大学学長
- 布野 修司 京都大学工学部助教授
- 矢田 清治 島根県建築士会会長
- 山谷 裕子 画家
- 広沢 卓嗣 島根県環境生活部長

敬称略/50音順 ○印は審査委員長

### 審査経過

- 募集期間  
平成13年7月2日(月)～8月31日(金)
- 募集結果  
応募総数……94件  
応募物件数…92件
- 第1回審査委員会(平成13年5月14日)  
対象物、募集方法、審査日程、審査基準等の検討。
- 第1次審査(平成13年9月21日～10月2日)  
応募書類、写真を基に第二次審査の対象となる36物件を選出。
- 第2回審査委員会(平成13年11月10日・11日)  
選出された36物件・活動について現地審査及び最終審査を行い、11物件を選定。
- 表彰式(平成14年1月24日)  
受賞物件の事業主体、設計者、施工者に対して賞状を、事業主体には副賞として銘板も併せて贈呈。

## 第9回 しまね景観賞第2次審査対象物件一覧

応募部門	物件名称	所在地
まち・みどり部門	史跡松江城二之丸櫓（南櫓、中櫓、太鼓櫓） 福祉の拠点・つつじ咲く道 土田漁港環境（海水浴場）整備事業 ※大井谷の棚田 高岡通りイメージアップ事業 ※原山 雲海ロード 国道431号線道路の修景（街路、緑地） ～ティファニー美術館 日立金属㈱安来工場	松江市殿町城山 仁多郡仁多町三成 益田市土田町土田 鹿足郡柿木村大字白谷 鹿足郡津和野町大字後谷 邑智郡石見町矢上 松江市西浜佐陀町 安来市緑が丘
土木施設部門	湖北芸術文化村周辺部景観整備 ※匹見川 床止工 ※津和野 殿町通り ※矢上 鹿子原新堤 新橋 松江城周辺道路整備	松江市西浜佐陀町 益田市横田町～神田町 鹿足郡津和野町後田 邑智郡石見町矢上 鹿子原 松江市内中原町～北堀町 松江市殿町
公共建築物部門	※安野光雅美術館 安来市営内代団地 ※石正美術館 亀嵩温泉 玉峯山荘 頓原町立頓原病院 大東町立大東中学校	鹿足郡津和野町後田 安来市切川町 那賀郡三隅町古市場 仁多郡仁多町大字亀嵩 飯石郡頓原町大字頓原村 大原郡大東町大字養賀
民間建築物部門	※出西窯無自性館 島根県合板協同組合 浜田針葉樹工場事務所 ※松江北堀美術館 特別養老老人ホーム 簸の上園 寺町プラザ シマネ益田電子 工場	簸川郡斐川町出西 浜田市治和町 松江市北堀町 大原郡大東町大字中湯石 松江市寺町 益田市虫追町
個人住宅部門	※小村邸 鷹匠町の家 土佐邸 高瀬川の家 森脇邸 青木虹ヶ丘の家 新田邸	平田市平田町 松江市外中原町 邑智郡瑞穂町内 出雲市大津町 八束郡八雲村大字西岩坂
工作物・その他部門	島根町総合サイン設備 大根島基地局（NTTドコモ中国） 五箇村朝市（こぞって市）風景 県立安来高等学校キャンパス内中庭整備事業 ※斐川町田園空間博物館 施設案内板	八束郡島根町内 八束郡八束町 隠岐郡五箇村大字郡 安来市佐久保町 簸川郡斐川町内

受付順 ※は受賞作品

## ■表紙のご紹介

### 「松江 津田の松原」 昭和22(1947)年 多色木版 (島根県立美術館蔵)

旧松江市街の東端の国道筋にある老松の並木道を描いたものである。この作品は、色摺版画の世界においても独自の世界を開拓してきた平塚氏が、その展開において成熟期を迎えた時期の作品である。描法は初期の細線から比べると肉太になっており、色彩も透明水彩のような鮮やかさを示している。平塚氏は著書の中でこの作品について「夕映に燃えている松の緑、燕脂色に輝いている道と松の幹、縦横に交差している紺青の陰影、それは恰度十月、出雲の秋酣の頃、それをうんと強調した。」と述べている。

### 平塚運一 (ひらつかうんいち) (1895~1997)

明治28(1895)年島根県松江市に生まれる。松江市で開催された石井柏亭の水彩画講習に参加、上京し井上凡骨に彫版を学ぶ。大正13(1924)年日本創作版画協会および国画会会員となり、国画会版画部創立に参加するなど、当時の創作版画運動の中心となって活躍。昭和20(1945)年東京美術学校に版画教室が創設され、木版の講師として指導する。同37年に渡米し平成7(1995)年に帰国するまでワシントンで制作を続ける。平成9年、102歳で没。松江市名誉市民。

